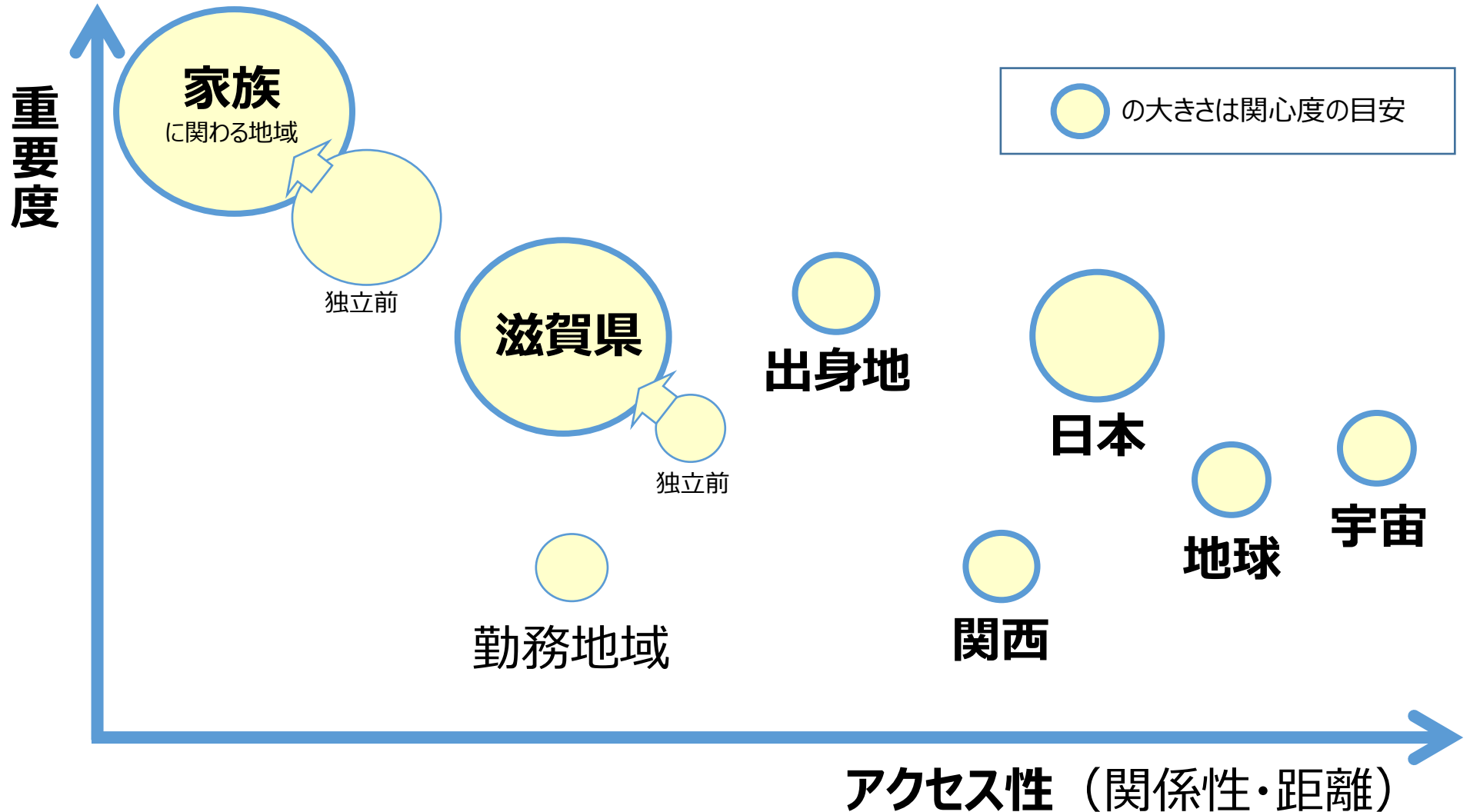


このマップは、人によって異なるし、同じ人でも変遷する



私の場合、

1. 地域の人にお世話になっているから
2. 地域が生き活きとすることにより、自分や家族も生き活きとできるから
3. 他の地域と比較して、優位性や独自性を感じたいため
4. 自分や家族が住んでいる地域が経済的に発展すると、
税金が増えて還元されるから

ただし、これも人によって違う
では、なぜ地域はまとまれるのか？

地域は一義的な定義ができないから、
基本的には、**ボトムアップ（貢献の持ち寄り）経営**と考える

下記は実際の会社において、ミドルマネジメントの立場で全社員に呼びかけた時に用いた変革のコンセプトですが、地域経営としても置き換えられるのではないかと思いました

- (1) 経営者としての視点・戦略を持ち、ミッション・ビジョンを実現する
- (2) 内発的動機付けから行動する
- (3) リーダーシップを発揮し、自らも人も動かす
- (4) 将来のための時間を確保する
- (5) コミュニケーションを重視し、相乗効果を発揮する
- (6) 最終的に、全社員を巻き込む ⇒ 会社全体の新しい文化を創る

<参考にした本>

- ・「マネジメント」P.ドラッカー
- ・「7つの習慣」S.コビー
- ・「最強組織の法則」P.センゲ
- ・「本物のリーダーとは何か」W.ベニス
- ・「ストーリーとしての競争戦略」楠木健
- ・「人を伸ばす力」E.デシ
- ・「企業変革力」ジョン・P.コッター
- ・「経営の美学」野中郁次郎, 嶋口充輝
- ・「戦略バランス・スコアカード」ロバート・キャプラン、デビット・ノートン

下記は実際の会社において、ミドルマネジメントの立場で全社員に呼びかけた時に用いた変革のコンセプトですが、**地域経営としても置き換えられる**のではないかと思いました

- (1) **施政者**としての視点・戦略を持ち、ミッション・ビジョンを実現する
- (2) 内発的動機付けから行動する
- (3) リーダーシップを発揮し、自らも人も動かす
- (4) 将来のための時間を確保する
- (5) コミュニケーションを重視し、相乗効果を発揮する
- (6) 最終的に、**全住民**を巻き込む ⇒ **地域**全体の新しい文化を創る

<参考にした本>

- ・「マネジメント」P.ドラッカー
- ・「7つの習慣」S.コビー
- ・「最強組織の法則」P.センゲ
- ・「本物のリーダーとは何か」W.ベニス
- ・「ストーリーとしての競争戦略」楠木健
- ・「人を伸ばす力」E.デシ
- ・「企業変革力」ジョン・P.コッター
- ・「経営の美学」野中郁次郎, 嶋口充輝
- ・「戦略バランス・スコアカード」ロバート・キャプラン、デビット・ノートン

人



自分らしい未来を
描ける生き方

「人生100年時代」と言われる長寿の時代の中、誰もが生涯を通じ、自分らしくからだも心も健やかな生活を送ることができ、柔軟なライフコースを自由に描くことができるよう、環境の整備を進めます。

経済



未来を拓く
新たな価値を生み出す産業

世界の経済情勢の変化や技術革新が激しく、就業構造の変化が続く中、グローバルな経営視点や先端技術等により、競争力を有する県内産業の創出と、多様な人材の育成・確保や事業承継を支援します。



滋賀県基本構想

変わる滋賀
続く幸せ

-Evolving SHIGA-



2030年に向けて
世界の共通目標
「持続可能な開発目標」です

滋賀県基本構想「変わる滋賀 続く幸せ」(2019年度～2030年度)

社会



未来を支える
多様な社会基盤

人口減少、高齢化の進展により、地域それぞれの状況が変わっていく中、地域社会を支える基盤として、道路や河川、ICT環境などの社会インフラの整備や、多様な人々の参加による住民が主体となった地域づくりなどを進めます。

環境



未来につなげる
豊かな自然の恵み

持続可能な社会経済活動が世界の潮流となる中、すべてのいのちの基盤として、琵琶湖や環境の保全再生と活用や、地球規模の環境問題への対応、持続可能な社会づくりを担う人材の育成などを進めます。



経営理念

私たちは、顧客とのコミュニケーションを大切に、そのニーズ・シーズの的確な把握のもと、常に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の理念を念頭に自らの資源と関係機関等との連携を最大限に活かし、質の高いサービスを迅速かつ着実に提供することにより、活力ある滋賀県産業の発展に貢献します。

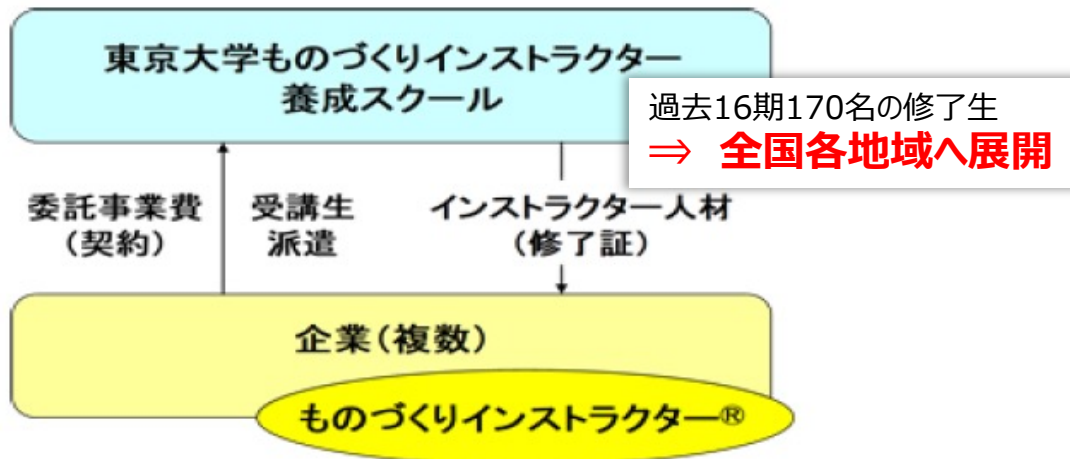
経営指針

- 顧客と同じ目線に立ち、コミュニケーションを最も重視し、そのニーズに的確に応え、ともに前進することを目指します。
- 産業支援機関や行政など、企業活動の支援に関わるパートナーとの連携を強め、総合的・一体的な支援を目指します。
- 産学官金連携の中核となっており、経営革新、新技術の研究開発、新事業やオンリーワン企業の創出など、新たな産業の振興に取り組みます。
- 県内企業の動向や産業界の生の声など現場情報の把握と蓄積に努め、行政や産業支援機関に提供するなど、産業支援策の充実強化に寄与します。
- 産業・経済の急激な変化や行政の政策方針に機敏に対応し、常にSDGsの理念を念頭に自ら考え行動する自立的な組織運営に努めます。

私は**本年4月よりこの組織の事業推進員**として勤務しています（月に9日の勤務）

総務企画部	総務課
	情報企画課
経営支援部	販路開拓課
	創業支援課
	経営相談室
	しが産業生産性向上経営改善センター
連携推進部	滋賀県プロフェッショナル人材戦略拠点
	イノベーション推進課
	プロジェクト管理室
	CO2ネットゼロ支援室
	滋賀県よろず支援拠点 （海外展開相談）

トヨタ生産方式や全社品質管理(TQC)に代表される生産・開発・購買の仕組み「統合型ものづくりシステム」(20世紀後半のわが国が世界に向けて発信できた貴重な知的資産の一つ)の研究成果の展開 (藤本隆宏教授が主導)



2021年9～11月実施のカリキュラム



主任講師 (ものづくり経営学 基礎編・改善指導編)

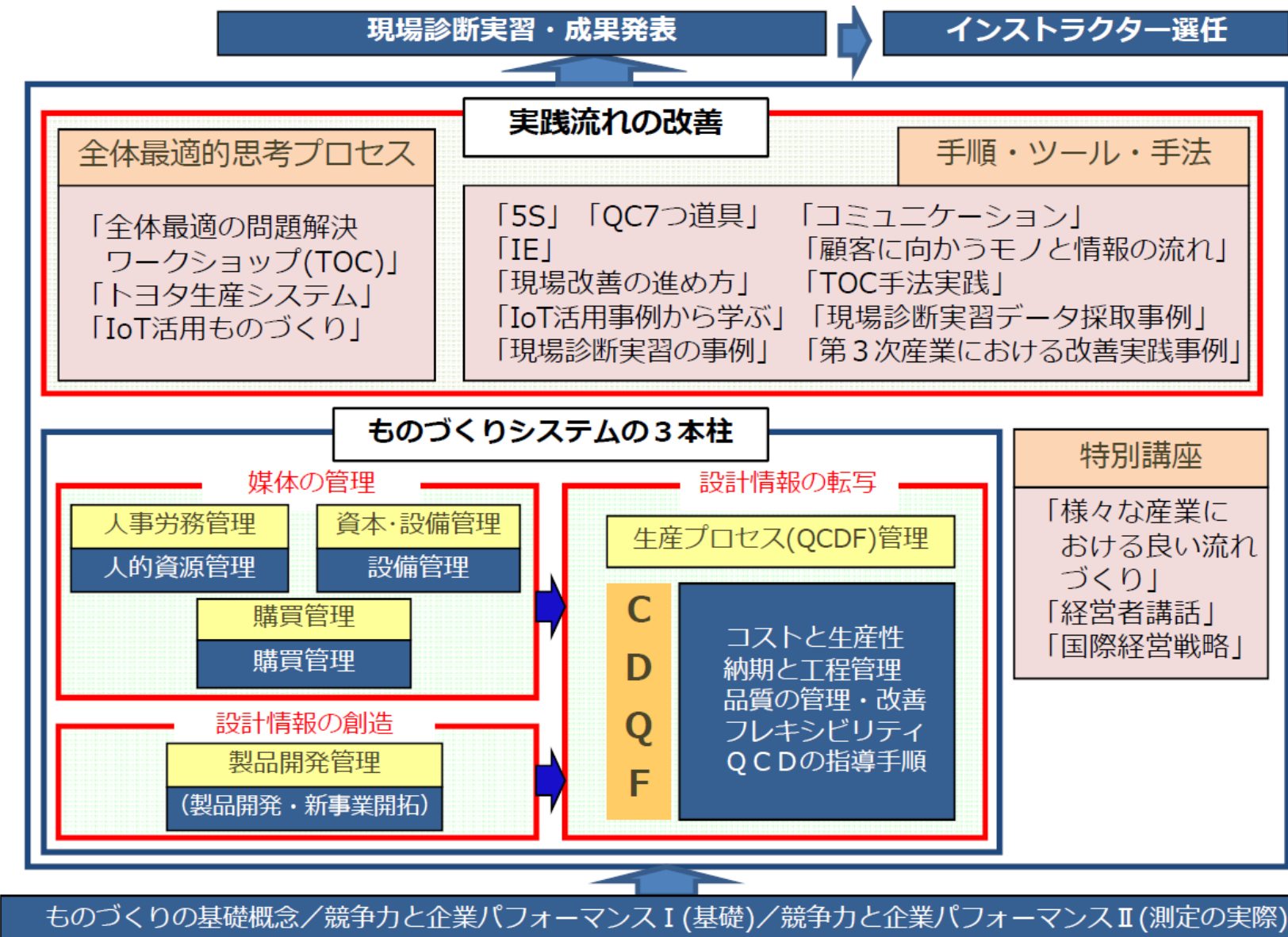
★藤本隆宏 前 MMRC センター長、早稲田大学教授、FT ものづくり研究所代表

講師 (ものづくり経営学 特別講義、演習・ワークショップ、現場改善の方法論)

- 新宅純二郎 東京大学大学院経済学研究科教授、ものづくり経営研究センター長
「ものづくりの国際経営」
- 半田純一 同 特任教授 「コンサルティングの基本」
- 稲水伸行 同 准教授 「経営成果を高める職場組織」
- 大木清弘 同 准教授 「海外におけるものづくり」
- 西成活裕 東京大学先端科学技術研究センター 教授
「渋滞学からの経営改善～シゴトの渋滞、解消の法則～」
- 岸良裕司 株式会社ゴールドドラット・ジャパン CEO
「全体最適の問題解決ワークショップ」
- 終 紫乃 愛知工業大学 教授 「ものづくり管理会計」
- 国谷晃雄 東京大学ものづくりインストラクター (1期)、地域スクール講師
「ものと情報の流れ図づくり」
- 小森 治 株式会社カイゼン・マイスター 代表取締役社長
「現場改善と経営改革」
- 羅本礼二 ミツイワ株式会社 取締役社長
「ものづくりにおけるロボット、IoT、AI の活用」

現場改善実習 (ベテラン工場経験者が実習指導)

- ◇高橋泰樹 元 キヤノン株式会社 理事 生産技術本部副本部長
- ◇岸田英俊 元 株式会社ブリヂストン中国工場 董事長/総経理
東京大学ものづくりインストラクター (2期)
- ◇井本達美 元 富士ゼロックス株式会社 生産技術部門出身
東京大学ものづくりインストラクター (2期)
- ◇佐々木誠 元 いすゞ自動車株式会社藤沢工場 工場長

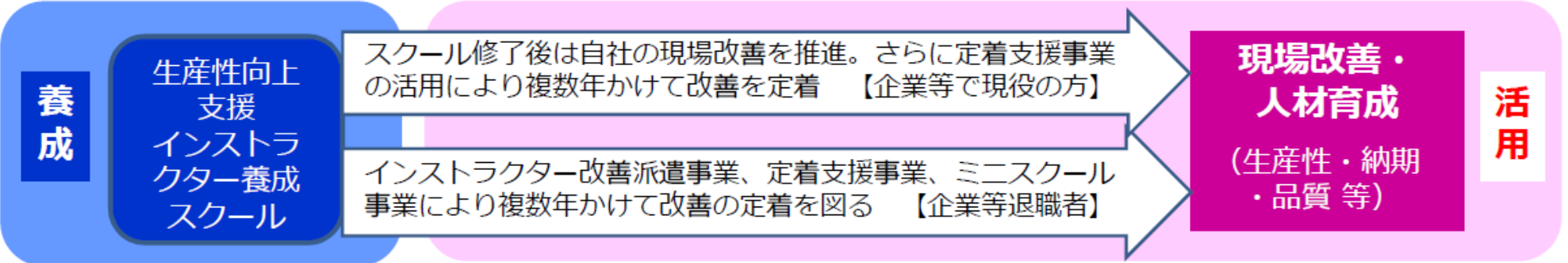


受講対象

- ① 滋賀県内企業・事業所の経営者、現場責任者、幹部候補者等
- ② 企業等退職者(例：生産管理部門責任者や改善活動等に従事・経験された方等)

講座概要

- ① 実施期間：2019年8月30日～12月21日 ・計20回 ・6～7.5時間/日
・毎週金曜日(現場診断実習は11月末～12月に金・土曜実施(4回))
- ② 受講料：県内企業現場責任者、幹部候補者等 25万円(税抜)
企業等退職者 13.8万円(税抜)
- ③ 定員：12名程度 ④ 場所：滋賀県大津合同庁舎7階会議室



運営主体：公益財団法人滋賀県産業支援プラザ
運営協力：滋賀県・立命館大学
連携：東京大学ものづくり経営研究センター

(引用) <https://www.shigaplaza.or.jp/mmic-scool2019/>

上記は、**野洲市にて5期、滋賀県にて5期**実施され(**2019年にて終了**)、MMICにて派遣されるインストラクターは上記スクールの修了生 MMICの事業推進員(2022年度は4名)の多くもインストラクター、派遣先(依頼企業)もインストラクターがいる企業が多い

○なりたち

“ものづくり技術”の核となるものは、「人」そのものです。この「人」への投資、すなわち**産業人材の育成**を真正面から支援するために、県では2015年、「滋賀ものづくり経営改善センター」を設立、2019年4月には、これまでに培ったノウハウを**第3次産業へも展開**し、本県の産業における生産性の向上を後押ししていくことを目的に、「しが産業生産性向上経営改善センター」として新たに出発しました。

※“**ものづくり技術**”とは、製造業の技術のことではなく、
「個々の固有技術をつなぎ合わせて、**全体最適な『良い流れ』を作る技術**」のことです。

○支援メニュー



(引用)
<https://www.shiga-plaza.or.jp/mmic/>

1 生産性向上支援インストラクター派遣事業

オンライン
対応可

製造業をはじめとする様々な業種の県内中小企業等を対象に、生産性向上、経営改善のご要望に、現場の“良い流れづくり”でお応えします

対象 県内企業・事業所等（※業種は問いません）

派遣者 生産性向上の“ものづくり技術”を習得し、活用できる人材を育成する「生産性向上支援インストラクター養成スクール」を修了し、滋賀県知事が選任した、現場指導経験と現場改善ノウハウが豊富なインストラクターです。

改善例 ・5Sの定着、業務の見える化で、「魅せる工場」に変革
・主要製品のリードタイム40%短縮

【インストラクター派遣による改善の一例】
赤札作戦の実施+生産方式の変更



派遣概要 30時間を上限として、インストラクターを派遣（※1回あたりの時間・期間等はご要望により決定）

企業負担金 19.8万円（税込、計30時間実施）

※継続支援は専門家派遣にて対応

本年度より経営革新支援の専門家派遣に移行し、現場において生産性向上への活動が定着するよう支援します

指名いただいた専門家（インストラクター）を現場に最大10回の派遣が可能
専門家派遣の規定の通り（滋賀県産業支援プラザのパンフレット参照）

2 生産性向上ミニスクール事業

オンライン
対応可

企業ニーズに応じた内容で生産性向上につながるミニスクールを開催します

対象 県内企業・事業所等（※業種は問いません）

講義内容 5S、IE、トヨタ生産システム、QCDF、現場改善の進め方 等から決定

講義概要 時間・回数：1講座3時間×3回を標準とする（※1回あたりの時間・回数はご要望により決定）

企業負担金 11万円（税込、1講座3時間×3回）

3 生産性向上実践塾(6日間コース)事業

『生産性の高い現場をつくる』リーダを人材育成します！

対象 県内企業・事業所等の現場管理者・リーダー・候補者

実施期間 2022年9月～11月の内6日間、隔週

内容 (1)ものづくり理論の座学・グループワーク
・ものづくり基礎概念、5S・3定、QC7・新QC7つ道具、改善の進め方、現場診断手順等
(2)受講生企業の現場診断実習
・受講生企業の改善計画策定、修了発表/修了式

参加費 6.6万円（税込）

定員 15名（1事業所 最大3名まで）

募集期間 2022年 7月1日（金）～ 8月5日（金）

学ぶ・気づく

座学・演習
改善のコツや
手順を習得

実践する

現場診断実習
受講生企業の現場診断と
改善計画の策定と発表



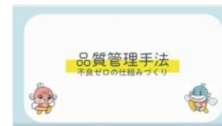
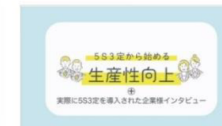
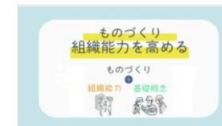
※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催日時や内容を変更させていただくことがあります

4 生産性向上web配信スクール事業

公開中

ミニスクール、実践塾などの講義簡易版（動画）を滋賀県産業支援プラザのホームページで公開中（視聴無料）

講義概要 ものづくり、5S3定、品質管理手法などの動画（1講座約15分）公開中



(引用) <https://www.shigaplaza.or.jp/mmic/>